

取扱い

●作動油

- 粘度グレードISO VG32～68相当の石油系作動油を使用してください。
- 粘度範囲15～400mm²/s{cSt}、油温範囲-15～70℃の両条件を満たす範囲で使用してください。
- 作動油の汚染は、弁の故障および寿命低下の原因になりますので、作動油の汚染管理には十分注意し、汚染度はNAS12級以内を保つようにしてください。

●周囲温度、相対湿度

- 周囲温度-15～50℃、相対湿度0～95%の範囲で使用してください。

●油温と周囲温度

- 油温と周囲温度との差が大きい場合は、サーマルショックに注意して使用してください。電磁操作弁の推奨周囲温度は、電気部材の温度限界に対する目安となるもので、サーマルショックを考慮したものではありません。

●フィルタ

- 25μm以下のラインフィルタを使用してください。

●取付け、保守

- 取付方向に制限はありません。ただし、電磁操作弁、電磁パイロット切換弁のノースプリング形は、スプールの軸が水平になるように取り付けてください。
- 弁の取付面は、表面粗さを1.6a以上、平面度公差0.01mm以上に仕上げてください。
- 弁のガスケット用Oリングは、特に指定のない限りOリング硬さHs90を使用してください。
- 弁からタンクへの管路は、タンク内の油面の下まで入れてください。

●タンクポート配管

- タンクポートには常に油が満たされるように配管してください。
- タンクポートには許容背圧以上のサージ圧力が発生しないようにしてください。

●連続加圧

- 電磁操作弁、電磁パイロット切換弁を高圧で長時間切換位置に保持することはさけてください。流体固着現象による作動不良の原因になります。

●最大流量

- 各圧力において弁の機能を満足する最大の流量です（圧力降下を無視して流しうる最大の流量です）。

●ソレノイドの励磁

- 電磁操作弁、電磁パイロット切換弁は、必ず一方の励磁を解いてから、他方を励磁してください。同時に励磁しないでください。

●ノースプリング形（デテント無）

- スプールの反転防止のため、連続励磁をしてください。

●ノースプリング形（デテント付）

- 瞬間励磁（0.1秒以上）で差し支えありませんが、確実なスプールの反転防止を必要とする場合は、連続励磁をしてください。
- 連続励磁を解く場合は、タンクラインを独立させてください。
タンクラインを独立させずに共通ラインとすると、他の切換弁の切り換えによって発生したサージ圧力により、スプールが不意に切り換わることがあります。特に非励磁状態で使用の時、この現象が生じやすくなります。